

第7号 南部箕蚊屋広域連合

まめ・カフェ通信

～第7回まめ・カフェ開催報告～

令和元年6月27日（木） 18:30～20:00

伯耆町農村環境改善センター 多目的ホール

参加者 40名（参加者 32名、スタッフ 8名）

（医師、薬剤師、保健師、看護師、理学療法士、介護支援専門員、
管理者、生活相談員、地域福祉推進員、その他）

まめ・カフェとは??

医療や介護、地域に関わる私たちの仕事ってまめでなければつとまらない。

「まめなかや?（元気ですか）」と、こまめな声かけが関係づくりの第一歩!…多職種が気軽に集ってまめに話せる場所が欲しい☆という声からできたのが、

まめ・カフェです!

【 アンケート結果より 】（回収数 29）

まめ・カフェに参加していかがでしたか?

1. 大変良かった 14
2. よかった 15
3. 普通 0

講座

「お金に困っている世帯をどのように捉え支援するのか」



まめ・カフェの飲みものとお菓子は皆さんからの募金で準備させていただいております。

今回も、ご協力ありがとうございました。



伯耆町社会福祉協議会で相談支援員をしている西村さんに、生活困窮者自立支援制度の説明と、生活保護に至る前にお金に困っている方の相談窓口があることをお話しいただきました。

また、介護保険分野との連携について、実際の事例に基づき、どのように自立支援事業につながったか、実際の支援の現場でどのような関わりを持ったのか話を聞くことで、参加者の皆さんも具体的にイメージできたのではないかと思います。

講座の後には、グループで、日ごろ感じていることや自分の体験などについて意見交換をしていただき、最後に全体での共有を行いました。

《参加者の感想》

- さまざまな業種の方々と関わって話し合いができて良い経験となった。
- 知らない制度を知ることができた。活用するしないではなく、いつかこのようなケースに出会った時、支援できる側に少しでもまわれるようになったのではないと思う。
- 事例を通してのグループディスカッションでいろいろな意見を聞くことができた。制度の詳細を知ることができた。
- 現在持っているケースで金銭面の課題のある方が多く悩んでいるところだった。支援事業についての知識はあったが、講演を聞いて、かわり方、方向性に導けるようにしていけると思った。
- 社協につなげる相談しやすさを感じる事ができた。ケアマネだからといっても、聞きにくい、技量が足りない難しさも知ってもらえた。
- 制度名は知っていたが、詳しい内容を理解しておらず大変参考になった。私自身は専門職でないのでよくわからないが、一般人はよくわからないのでは、制度の周知が必要。
- 生活保護に至る前の自立支援(生活困窮者)の制度があることを知ったこと。ケースを通して、相談支援員の関わり方、連携のあり方を学べた。
- 生活困窮者までには至らなくても、必要な介護サービスを控えがちな利用者、介護者にどう関わればいいのかのいろいろと思う。グループで解決を求めるのではなく、普段の会話ができて良かった。
- ケアマネにできること、できないことがあるので、専門職の力をかりる大切さを学んだ。
- 制度について勉強させていただきました。ケアマネとして、知識があると支援の方法について幅ができると思います。いろいろな方との連携を図るためにも、グループで意見交換でき良かったです。
- 直接会って話しができて良かった。金銭的なことはなかなか確認しづらい状況。一割負担が払えない時は相談します。
- 他事業所の方と意見交換ができるのがいい。たくさんの方の関わりが介護者も良い方向に変わり、それによって本人もかわり、良い結果につながる事例には共感。



☆アンケート結果の一部をご紹介します。

ご協力ありがとうございました。次回も、皆さまのご参加をお待ちしております！

発行／南部箕蚊屋広域連合

Tel：0859-39-6222

Fax：0859-39-6223